

令和 5 年 4 月 27 日現在

機関番号：33908

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K01637

研究課題名(和文) 合法外国人単純労働者の導入後における、質を確保できる望ましい移民政策の探究

研究課題名(英文) A study of desirable immigration policy to keep the average quality of workers: after the permission of the introduction of legal unskilled foreign workers.

研究代表者

近藤 健児 (Kondoh, Kenji)

中京大学・経済学部・教授

研究者番号：70267897

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：研究論文"Restriction Policies to lower quality foreign workers: in case of co-existing legal immigration and two types of illegal immigration"で、外国人労働者の平均的な質の向上を図ろうとするならば、むしろ不法入国者の流入を緩和する政策が有効である可能性があることを理論的に明らかにした。その他にも頭脳流出を嫌う相手国の反応や、環境に優しいアグリツーリズムを考慮した国際労働移動関連の論文を執筆した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

外国人単純労働者の受け入れに舵を切った政府の方針を前に、どのような方法で受け入れる外国人労働者の平均的な質を高めてゆることができるのかを理論的に分析する研究である。ほとんどこのテーマを扱った先行研究は存在せず、意外にも不法入国者の取り締まりがそれに役立たない可能性がありうることを指摘した。また相手国も頭脳流出を阻止しようとしている2国モデルでの戦略的な移民政策を扱った研究も、先行研究がほとんどなく、受け入れ国にとって移民の総量は規制できても、質の向上を図ることの難しさを理論的に明らかにした。どちらの研究も非常にユニークであり価値が高いと考える。

研究成果の概要(英文)：An Article entitled "Restriction Policies to lower quality foreign workers: in case of co-existing legal immigration and two types of illegal immigration" suggests the possibility that it might be better to relax the inflow of illegal immigrants in order to improve the average quality of foreign workers. Additionally, a theoretical research paper is published which considers the reaction of the source country intending to protect brain drain. Also a study considering the existence of environmentally friendly agritourism is also published.

研究分野：国際経済学

キーワード：国際労働移動

1. 研究開始当初の背景

特定技能制度は、国内人材を確保することが困難な状況にある産業分野において、一定の専門性・技能を有する外国人を受け入れることを目的とする制度であり、2018年に可決・成立した改正出入国管理法により在留資格「特定技能」が創設され、2019年4月から受入れが可能となった。「技能」と書かれてはいるものの、これは実質的には本格的な単純労働への門戸開放を内容とするものである。その結果新しい政策の下で合法熟練労働者、合法単純労働者、不法滞在者、偽装移民労働者の4つのタイプの外国人労働者が併存することになった。

2. 研究の目的

異なる潜在的な能力を持つ外国人が、生涯期待所得を最大化するために、リスクやコストを勘案したうえで、合法熟練労働者、合法単純労働者、不法滞在者、偽装移民労働者の4つのタイプのどのタイプの労働者として日本で就労しようとするかを決定することを考慮に入れ、一定量の外国人を受け入れつつも外国人労働者の(平均的な)質を高めることは、どのように不法移民への規制の強度や合法移民への待遇を操作することによって可能となるのかを理論的に分析することを目的とした。

非合法的な形でしか就労できなかった外国人単純労働者が、技能実習後の延長という形をとりつつも一定期間合法就労する道が開けつつあることは、我が国にとっては従来の方針を全面的に転換する新しい事態である。これまで合法単純労働者の存在は想定外だったため、一つの移民手段として考慮し、他の方法と比較検討した理論研究は存在しなかった。移民労働者の最適行動を考慮した移民政策に関する理論研究はこれまでも内外に存在するものの、ここで検討する4つの選択肢をすべて考慮した研究はなく、本研究独自のものであり創造的な側面である。

3. 研究の方法

一定の外生的条件下では、潜在的な能力の高い者、中位の者、低い者が2)、3)、4)のどのタイプの移民を選択するかについて、種々のケースが生じうる。すなわち合法単純労働者になる層が、不法滞在者や偽装移民を選択する層と比べて、より高い潜在能力の者になるケースもありうるし、逆により低い潜在能力の者になるケースもありうる。不法滞在者よりは低い能力、偽装移民よりは高い能力の中位になるケースも考えられる一方、不法滞在者よりは高い能力、偽装移民よりは低い能力の中位になるケースも考えることができる。摘発強化と罰金増をセットにした財政中立的な3)および4)への規制強化、2)の認可する人数や滞在期間の変更、1)の条件緩和などの政策がどのような結果につながるか。それぞれの場合で当然望ましい効果をもたらす政策は異なってくるのが予想される。

ただし理論的に示される様々な可能性のうちで、実際に現実的なシナリオは限られる。外国人労働者の直面する摘発などのリスク、偽装にかかるコスト、割引率、合法移住要件獲得のための最低必要時間やコストなどの実態を調査することにより、合法単純労働者が導入された場合に、実際にどの層が不法滞在や偽装移住をやめてこの方法での就労を選択するかを絞り込み、特に政策的に留意すべきポイントが指摘できるものと考えられる。

	名称	コスト	リスク	生涯賃金
1)	合法熟練労働者	技術習得コスト	なし	潜在能力に応じて技術習得期間やコストが異なる。それまでは母国賃金。移住後は熟練労働者賃金。
2)	合法単純労働者	ほとんどなし	なし	技能実習生期間+一定認可滞在期間は単純労働者賃金。帰国後は母国賃金。
3)	不法滞在者	ほとんどなし	滞在中摘発(国内査察)リスクあり	摘発されるまではディスカウントされた単純労働者賃金。摘発されれば送還されて母国賃金。
4)	偽装移民労働者	偽装結婚・偽装難民書類代金(ブローカーへ支払い)。入国失敗時には罰金。	入国時摘発(国境検問)リスクあり	摘発されなければ単純労働者賃金。摘発されれば罰金を支払い、送還されて母国賃金。

但し、熟練労働者賃金 > 単純労働者賃金 > ディスカウントされた単純労働者賃金 > 母国賃金。

ディスカウントされた単純労働者賃金とは、摘発時に不法滞在者の雇用者に罰金が科せられる

ため、そのリスク相当額を賃金から差し引く形で転嫁するもの。Bond and Chen (1987) および Yoshida (1993)の定式化に見られる。

4. 研究成果

研究論文 "A Paradoxical Immigration Restriction Policy for Unskilled Illegal Immigrants" を執筆し、"Restriction Policies to lower quality foreign workers: in case of co-existing legal immigration and two types of illegal immigration" を執筆し、2019年8月の第59回ヨーロッパ地域学会(リヨン、フランス)と、2019年9月の第10回国際貿易、要素移動、開発のグローバル連関に関する学会(バーリ、イタリア)で報告した。この研究は本研究課題を進めるうえでの様々な理論経済学的なアプローチの可能性を探る第一歩となるものである。現時点で、外国人労働者の平均的な質の向上を図ろうとするならば、むしろ不法入国者の流入を緩和する政策が有効である可能性があることを理論的に明らかにしており、極めて逆説的でユニークな結論となっている。学会報告に際して得られたコメントを基に改良が重ねられ、最終的に査読付き学術誌に掲載された。(Asia-Pacific Journal of Regional Science, vol.4 (2), 2020, p. 479-497)。

併せて関連するトピックスを扱う研究論文も執筆した。まず2019年には "Tourism, Capital/Labor Inflow, and Regional Development" を Yuichi Furukawa および Shigemi Yabuuchi と共同執筆し、海外の査読付き英文学術誌 International Advances in Economic Research に掲載された (Vol. 25 (2), pp.221-233)。

さらにアグリ・ツーリズム産業がある農村地域への域外からの労働力の導入がおよぼす経済効果については、東北学院大学の倉田洋教授との共同研究を進めることができた。研究成果は学術論文 "Agritourism, Unemployment, and Urban-Rural Migration" として、2021年に Springer 発行の学術書 Amitrajeet A. Batabyal, Yoshiro Higan and Peter Nijkamp (Eds.) Rural-Urban Dichotomies and Spatial Development in Asia の第2章として公刊された。また、本来の研究課題に近づけるために、資本移動と貿易が自由化された、失業者を抱える都市と完全雇用の農村共に柔軟賃金の小国先進国経済にモデルを拡張・変更した論文 "Agritourism, the Inflow of Foreign Workers and Economic Welfare in a Developed Country" を、2022年9月にイタリア・バーリでの学会、2023年2月にはスロヴェニア・リュブリャナでの学会で、それぞれ報告をし、貴重なコメントを得た。この研究は引き続きさらに改良すべく改訂作業が進められている。

さらに日本大学の松原聖教授とは、論文 "Protecting Brain Drain Versus Excluding Low-Quality Workers" で、低質な外国人労働者を排除して、一定水準以上の技能を持つものだけを受け入れようとする先進国と、頭脳流出を防ぐため、良質な労働者の流出を防ごうとする送り出し国の政策対立を検討した。低質な不法移民を受け入れ国政府が取り締まる方策は、その総量を規制できても、質的な向上には必ずしもつながらないが、送り出し国の人口増加が結果的に外国人労働者の質の向上につながりうることを示した。この論文は C. Le Van et al. (eds.) "International Trade, Economic Development and the Vietnamese Economy" (Springer, 2022) に掲載された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Kenji Kondoh and Hiroshi Kurata	4. 巻 48
2. 論文標題 Agritourism, Unemployment, and Urban-Rural Migration	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Batabyal, Higano and Tawda (eds.) Rural-Urban Dichotomies and Spatial Development in Asia, New Frontiers in Regional Science: Asian Perspectives	6. 最初と最後の頁 25-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-981-16-1232-9_2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kenji Kondoh	4. 巻 4(2)
2. 論文標題 A Paradoxical Immigration Restriction Policy for Unskilled Illegal Immigrants	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Asia-Pacific Journal of Regional Science	6. 最初と最後の頁 479-497
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s41685-020-00155-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yuichi Furukawa, Kenji Kondoh and Shigemi Yabuuchi	4. 巻 25 (2)
2. 論文標題 Tourism, Capital/Labor Inflow and Regional Development	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Advances in Economic Research	6. 最初と最後の頁 221-233
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11294-019-09733-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Hiroshi Kurata and Kenji Kondoh
2. 発表標題 Agritourism, Unemployment, and Urban-Rural Migration
3. 学会等名 日本国際経済学会関東支部第2回報告会(オンライン開催)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kenji Kondoh
2. 発表標題 Restriction Policies to lower quality foreign workers: in case of co-existing legal immigration and two types of illegal immigration
3. 学会等名 59th ERSA Congress (Lyon, France) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kenji Kondoh
2. 発表標題 Restriction Policies to lower quality foreign workers: in case of co-existing legal immigration and two types of illegal immigration
3. 学会等名 10th International Conference on "Economics of Global Interactions: New Perspectives on Trade, Factor-Mobility and Development" (Bari, Italy)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関